

# IAMAS 図書館便り

IAMAS [イアマス] とは、情報科学芸術大学院大学の英語表記の頭文字を取った略称です。



## 特集 TOKYO MELODY 1984

### 坂本龍一図書館資料展

- メディアとしての図書館 松井茂（図書館長）
- 図書館活用術（4）国会図書館デジタルコレクション
- 司書のオススメ！

## 特集 TOKYO MELODY 1984 坂本龍一 図書資料展

2023年5月29日から7月24日まで、本学附属図書館の展示スペースにて、「TOKYO MELODY 1984 坂本龍一 図書資料展」を開催しています。

### 坂本龍一：マスメディアの中の芸術家

坂本龍一（1952～2023年）の活動を、アートヒストリーとして振り返るとき、YMOが1983年末に散開し、ソロ活動を始めた1984年が注目されます。なぜなら、本本堂（出版社）とMIDI INCにSCHOOLレーベルが始動し、音楽に留まらない言説空間を巻き込んだメディア・パフォーマンスの実践が始まるからです。

YMOの活動を通じてマスメディアの寵児となった坂本は、自身への社会的な注目を「抑圧」として意識しました。他方でこうした状況と現象を活用することで、新たな芸術表現を構想した側面があったようにも見えます。本展では、1984、85年に刊行された雑誌——音楽、美術、文芸の専門誌やミニコミ誌、さらに総合誌、週刊誌や大衆誌など——と書籍を振り返ることから、坂本が実践したメディア・パフォーマンスを検証します。（※1）

誌面には、領域横断としてのパフォーマンス、脱構築への期待、バブル目前、未だローカルな性格をとどめながら情報都市化する「東京」の時代感覚が溢れています。1984年に来日したナム・ジュン・パイクやローリー・アンダーソンとの交流、晩年まで継続される浅田彰とのコラボレーションも登場します。

会場で当時の雑誌を手に取り、マスメディアの中の芸術家、坂本龍一の表現と思想を体感してください。芸術表現が文化現象として都市空間に拡散する時代、新たな資料体構築の射程を提案する展覧会です。（※2）

松井茂

※1 川崎弘二、松井茂「坂本龍一インタビュー」『情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 紀要』第11巻、2019年、176-189頁

※2 本展タイトルは、1984年にElizabeth Lennard監督によるフランスのドキュメンタリー番組『Tokyo melody: un film sur Ryuichi Sakamoto』（1985年）に基づく。



『美術手帖』2017年5月号  
特集：坂本龍一



『芸術新潮』2023年5月号  
追悼 | 総力特集  
坂本龍一

## メディアとしての図書館 松井茂（図書館長）

2023年4月から図書館長をしています。ふと思い出すのは、「図書館は奇跡のサービスだ」というフレーズです。古今東西有史以来の「知」にアクセス・フリーであることを考えれば、このキャッチフレーズに偽りはないでしょう。言い換えれば、ネット・カルチャー、シェアリング・カルチャーの基盤にはメディアとしての図書館があるということなのです。

メディア表現研究の実践として、本学の図書館を考えると、映像資料や電子資料の活用手法、遡って非図書資料である印刷物の資料化、検索、分類、タグ付け、ヴァージョン管理、知財としての運用等々・・・は、学術にもビジネスにも活用できる社会制度の設計そのものにも関わります。図書館のユーザーとなることから、知の設計者を目指しましょう。

普通の図書館とは異なり、研究活動の議論の場として、作品発表の場として活用したいと考えています。メディア表現研究を標榜する大学院にふさわしい、21世紀の図書館を模索しましょう。



### ◆情報科学芸術大学院大学附属図書館 利用案内

- 開館時間 月-木 10:15-19:00 / 金 11:15-20:00
- 休館日 土曜日・日曜日・祝日、年末年始、臨時休館日（蔵書点検など）
- 貸出  
学生 20冊・3週間以内  
卒業生 5冊（図書のみ）・2週間以内  
学外者 2冊（図書のみ／県内在住・在勤）  
・2週間以内



## 図書館活用術（４）国会図書館デジタルコレクション

国立国会図書館は、以前から所蔵資料のデジタル化に力を入れており、著作権保護期間の満了した図書や古典籍、音源などを公開していましたが、昨年末から公開資料の数が検索方法が大幅に拡大されました。

（全文検索が可能な資料 5万点 → 247万点）

これらの資料は図書館を通じた利用に限定されていたものが多かったのですが、拡大後は個人でも利用者登録することにより、自宅の端末からでも多くの資料を検索、閲覧することができるようになりました。

また利用者登録すれば、デジタルコレクションの他にも、国会図書館の資料のコピー・郵送をオンラインで申し込むことができるなど、便利なサービスを利用することができるようになります。登録は、オンラインのみの手続きで可能です。古い資料の閲覧や、雑誌記事・論文の複写を頻繁にされる方は、登録してみてもはいかがでしょうか。



国立国会図書館  
デジタルコレクション

### 【参考URL】

- ・国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/>
- ・国会図書館の利用者登録について  
<https://www.ndl.go.jp/jp/registration/index.html>

## 司書のオススメ！（１）長谷敏司『プロトコル・オブ・ヒューマニティ』

IAMASの皆さんは、講義や研究に必要な思想書や学術書、コンピュータ関係の技術書をよく利用されています。しかし時にはちょっと肩の力を抜いて、でもちょっとIAMASらしい、このような本もいかがでしょうか。

今回紹介するこの小説は、事故で片足を失ったコンテンポラリー・ダンサーが主人公。彼はAI制御の義足をつけて復帰に挑むのですが、時には不自然で危険な動作もともなうダンスを行うには、AIとの葛藤を余儀なくされます。人と機械との言葉によらぬ「対話」の先に展開されるダンスとは…。2022年の国内ベストSF2位となった話題作。

理知的な話に終始するかと思いきや、世界的ダンサーだった主人公の父が認知症を患い、主人公は自分の問題を抱えながら父の介護も行わねばならないなど、背中に貼りつくような生活の問題も描かれます。

著者の長谷敏司は、人工知能学会でも発表を行っている本格派。この作品の他にもAIをテーマにしたSFを多く書いています。



『プロトコル・オブ・ヒューマニティ』  
（早川書房／2022年）